

高尾山古墳見学会資料

解説動画は
こちら



沼津市教育委員会事務局文化振興課
沼津市建設部道路建設課
令和5年1月22日/28日



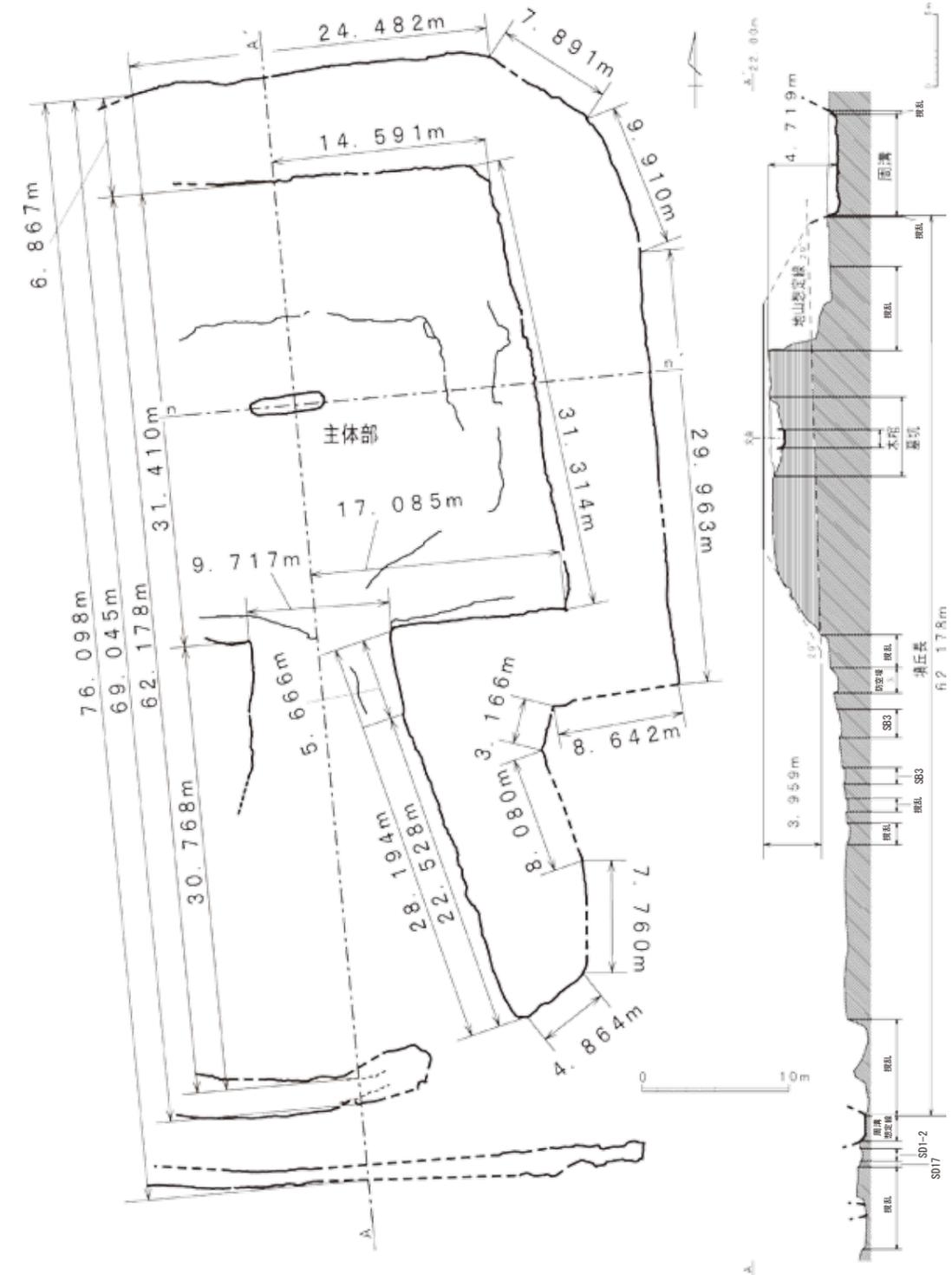
高尾山古墳は、沼津市東熊堂字北方^{ひがしくまんどう}に所在し、都市計画道路沼津南一色線建設に伴う発掘調査によって確認された全長約62mの前方後方墳です。出土遺物から3世紀中頃に築かれたと考えられ、東日本の中でも最古級の古墳です。

現在の古墳周辺は市街地化しているため分かりづらくなっていますが、愛鷹山^{あしたかやま}から樹枝状に延びる尾根の先端部に立地していて、かつては駿河湾や伊豆半島を見通すことができる比較的眺望が開けた地でした。駿河湾を船でやってきた人にとって、おそらく高尾山古墳はシンボルのように目立つ存在であったと思われます。

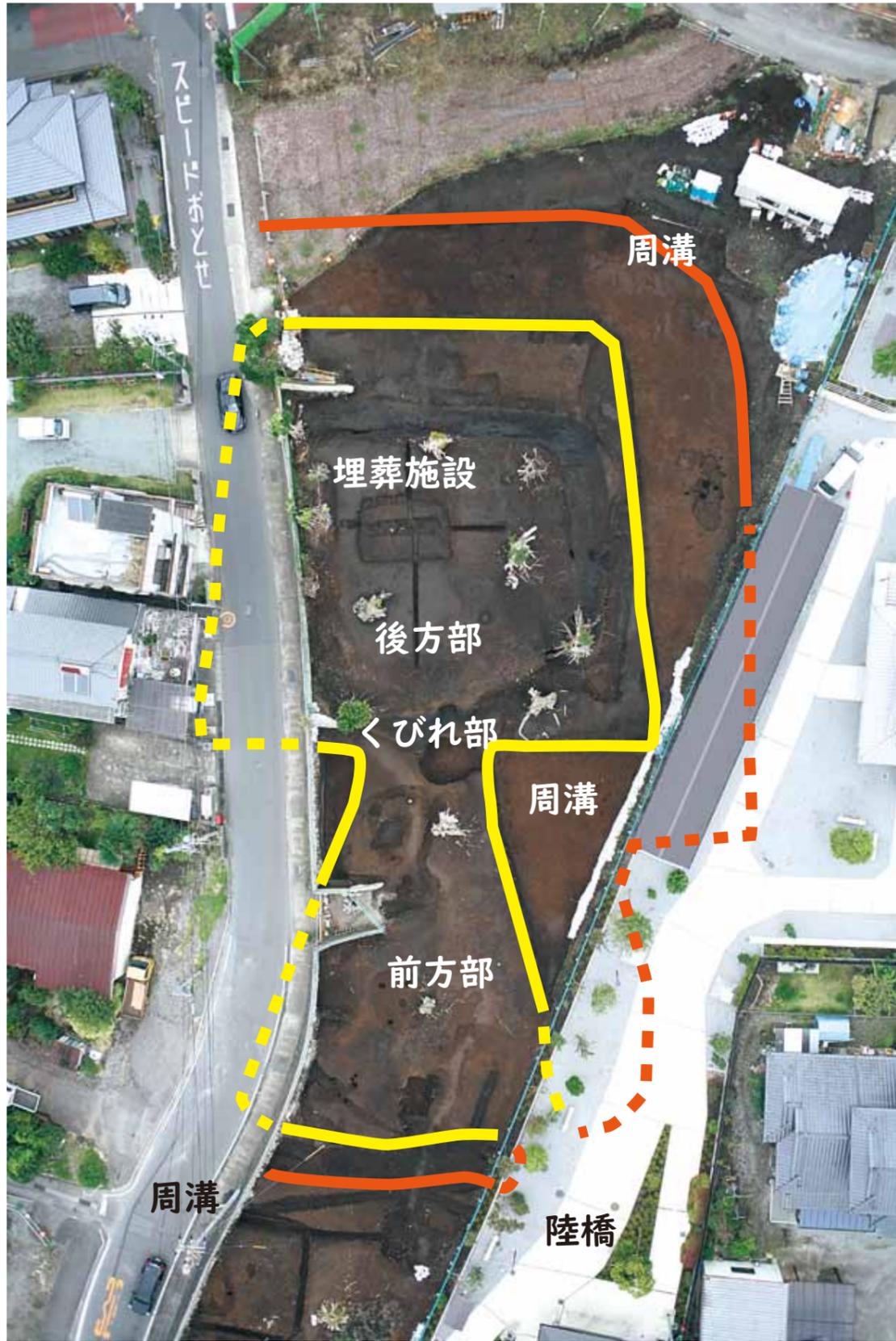


本発掘調査は平成20年度～21年度と平成26年度に実施され、東日本最古級の大型前方後方墳であることが判明しました。当初は道路計画によって記録をとった後、取り壊す計画でしたが、古墳の価値が非常に高いことや古墳保存を望む声も多く寄せられたことも受け、沼津市は道路と古墳を両立させることとし、現在は古墳をき損しない道路設計案の作成と高尾山古墳を国指定史跡とするための取り組みを進めています。

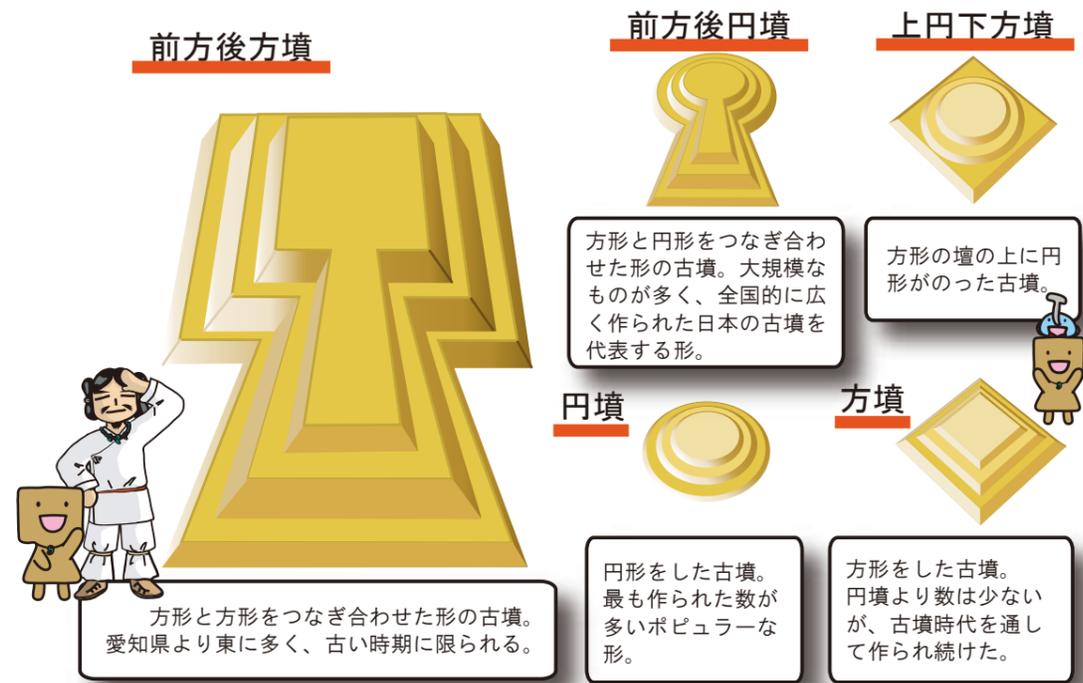
- ① 東日本最古級かつ古墳時代初期においては最大級の前方後方墳であり、かつ埋葬施設（主体部）も未盗掘の状態で見られ、豊富な遺物が出土しました。
- ② くびれ部が細く、前方部はわずかな屈曲点を伴いながら直線的に開く特徴的な形状をしていました。また後方部と前方部の比高差は4mと非常に高くなっています。周囲には周溝^{しゅうこう}と呼ばれる溝がめぐり、北東は多角形に屈曲し、南側には陸橋^{りっきょう}がありました。
- ③ 研究者によって円形と方形の復元案の2つの案が考えられています。どちらが正しいかは今後の研究によりますが、いずれにせよ統一的な尺度があり、精緻な設計が存在していた可能性が高いと考えられます。
- ④ 埋葬施設からは、青銅鏡1面、槍2本、鉄鏃（やじり）32本、ヤリガンナ1本、勾玉1点が出土しました。いずれも当時においては貴重な副葬品です。さらに埋葬施設が埋め戻された後、被葬者の頭の上には地元の土器である巨大な壺が、足元には別の地域からもたらされた壺が置かれていました。
- ⑤ 墳丘や周溝からは地元の土器とともに多様な地域から運ばれてきた土器、もしくはその影響を受けて地元で作られた土器が多く出土しました。



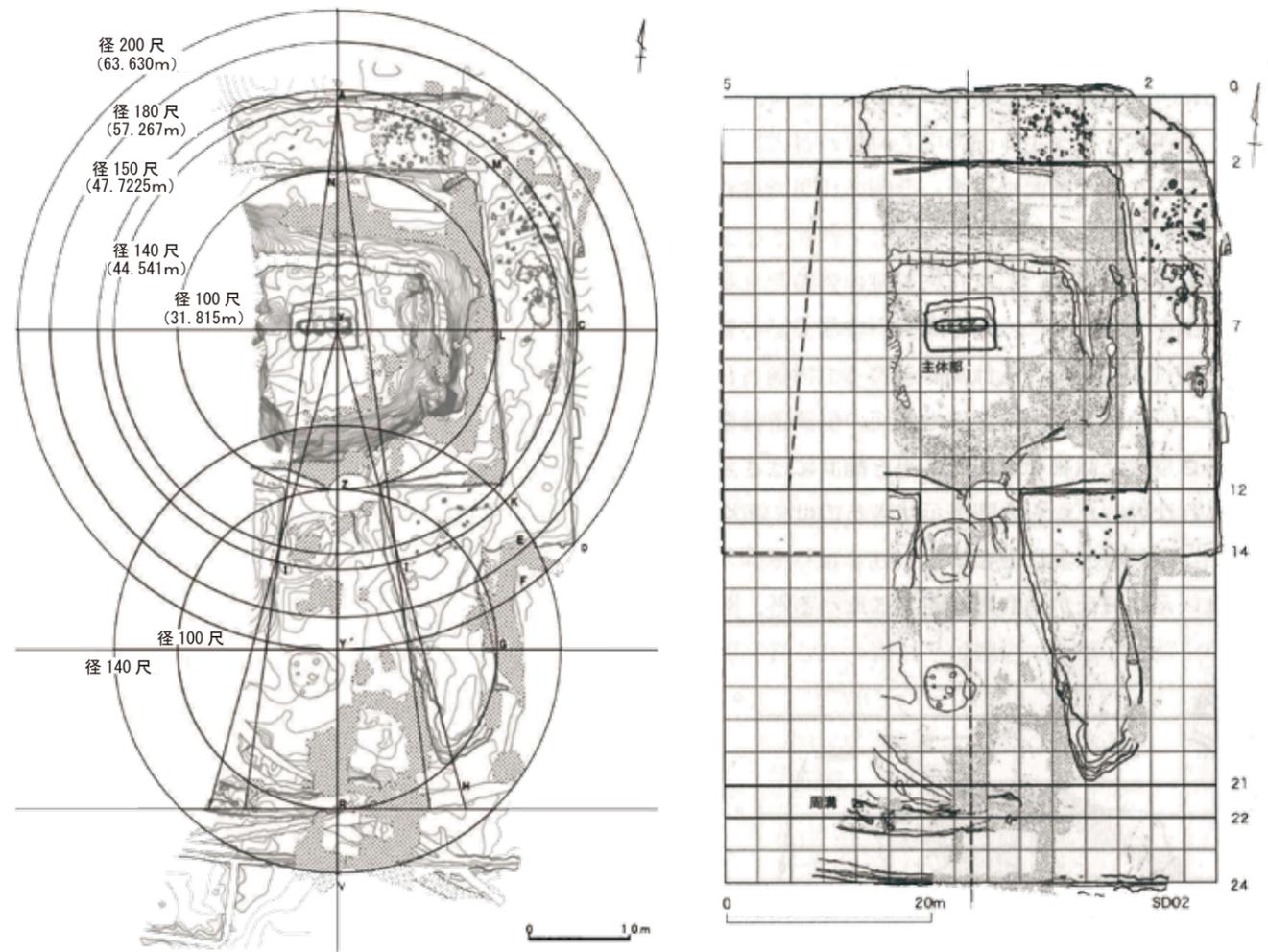
第1図 高尾山古墳墳丘・周溝計測図



高尾山古墳空中写真（平成 21 年撮影） ※破線は推定を含みます

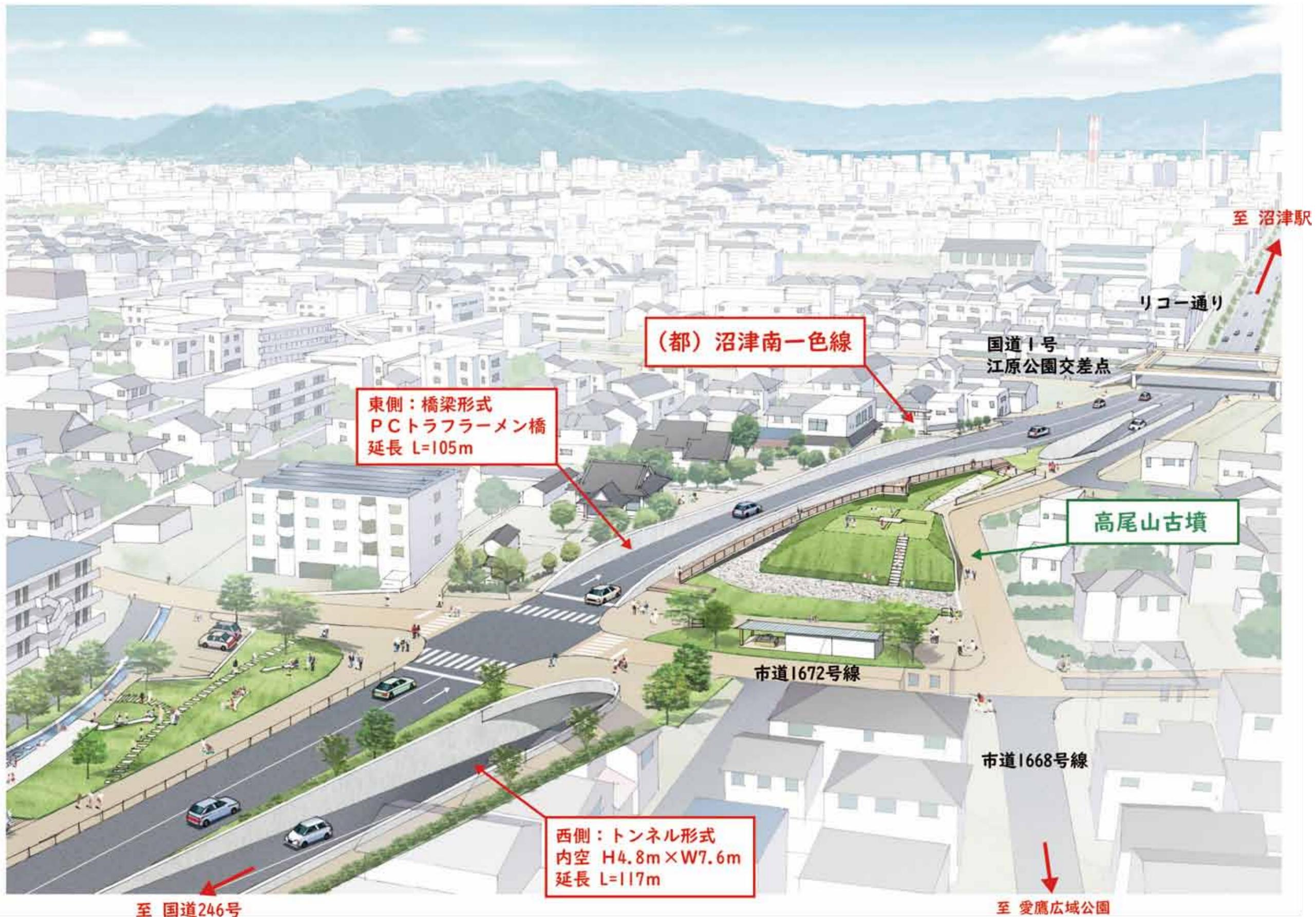


第2図 様々な古墳の形



第3図 高尾山古墳設計企画案

【出典】 左図：寺沢 薫 2012 「高尾山古墳の評価をめぐる二・三の問題」『高尾山古墳発掘調査報告書』
右図：北條芳隆 2013 「高尾山古墳と墳丘築造企画論」『西相模考古』第 22 号



第5図 沼津南一色線と高尾山古墳の両立を図る設計案

古墳東側を2車線橋梁形式、古墳下を2車線トンネル形式にて施工し、古墳は公園として整備していきます。